

【各疾患と症状、特徴等】

認知症について

◎下記の症状に当てはまる認知症は何か。

1. リアルな幻視、日内変動、せん妄などを呈する認知症・・・()
2. 初期では、記銘力障害、見当識障害、空間認知障害などを呈する認知症・・・()
3. 人格変化、反社会的行動などを初期に呈する認知症・・・()
4. 男性に多く、片麻痺などを伴う認知症・・・()
5. 脳の白質の変化に伴う認知症・・・()

◎かっこを埋めなさい。

1. アルツハイマー型認知症は性別では()に多い。
2. ピック病では同じ行動を繰り返す()が見られる。同じ時間にいつも同じ行動をすることを()という。
3. レビー小体型認知症では、突進様歩行など()症状がみられる。
4. ()は5年後に約50%程度認知症に進行する。
5. アルツハイマー型認知症の見当識障害では、まず()の見当識が障害される。

統合失調症について

1. 統合失調症は性別では、()。
2. 統合失調症の発症率は約()%で、精神科の入院患者では()。
3. 統合失調症では()の障害はない。また、知能の障害も基本的にはない。
4. 予後不良因子として、発症年齢が()、性別では()、神経学的症状がある、家族歴が()、発症から治療までの期間が()、陰性症状が()などがある。
5. 予後が良好な因子として、発症が()、()性の発症、()病症状を呈する、病前の性格が()、明らかな()などがある。
6. 家族の感情表出が()ほど、再発しやすくなる。
7. 統合失調症では、他の人に比べて死亡率が()。
8. 「脳が溶ける」、「皮膚から虫が出てくる」などの症状は()である。
9. じっと座ってられない、足がむずむずするというのは()である。
10. 急に眼球が上転するというのは()である。
11. 長期の薬物服用により、口がもぐもぐ動く、下を出したり引いたりするというのは()である。
12. 多量の薬物服用により、頻脈、高熱、流涎、意識障害など重篤な症状を示すものを()という。
13. 緊張病症状として、発動性がなくなるという()、他動的に手を挙げさせるとその姿勢を続ける()、同じところをウロウロする()、芝居じみた挨拶や奇妙な身振りをする()、大声で叫んだりする()などがみられる。
14. 陽性症状として()、()、()、()などがある。
15. 陰性症状として()、()、()、()などがある。
16. 統合失調症の服薬は一生続けることが()。

気分障害について

1. うつ病は（ ）性に多い。
2. うつ病の発症率は約（ ）%である。
3. うつ病の身体症状として、（ ）、（ ）、（ ）などがある。
4. うつ病では（ ）、（ ）、（ ）などの睡眠障害がみられる。
5. 思考の障害として、うつ病では（ ）が、躁病では（ ）がある。
6. 躁病では、活動性が亢進していてなかなか寝ない、朝早くから起きるという（ ）がある。
7. 躁病では、いろいろなことを次々に行う（ ）がみられる。
8. 双極性障害は単極性うつ病に比べて、発症年齢が（ ）、（ ）の関与が強い。
9. 双極性障害には躁状態が重度の（ ）と、軽度の（ ）がある。
10. 双極性障害では性別では（ ）。
11. 躁病の薬物療法として（ ）が用いられる。
12. うつ病の薬物療法として、以前は（ ）や（ ）の薬が使われていたが、現在は（ ）や（ ）など、副作用の少ない薬が使われるようになった。
13. 気分障害に対して電気けいれん療法は、効果が（ ）。
14. 老年期のうつ病では、考えが遅くなったりすることで（ ）となることがある。
15. 季節性うつ病は、日照時間の短い（ ）頃、症状が悪化するもので（ ）が効果がある。
16. 産後になる（ ）は、産後1か月頃から発症することが多く、自分のこどもが可愛く思えない、育児を放棄するなどの症状がみられる。
17. 胃が痛いなどの身体症状が前景に出るうつ病を（ ）という。
18. 身体疾患や神経症があると、うつ病を（ ）しやすい。
19. うつ病では朝は調子が（ ）、夕方は（ ）という（ ）がある。
20. 不安や焦燥感の訴えが強い（ ）は、初老期や老年期に多い。
21. うつ病の初期では、まず（ ）が必要となる。
22. 1日中の抑うつ気分や意欲の低下、食欲低下、睡眠障害などが2年以上続く場合は（ ）である。

神経症・ストレス関連障害について

1. 外傷後ストレス障害（PTSD）では、（ ）を経て発症する。
2. PTSDでは、外傷的出来事がよみがえる（ ）がおこる。
3. PTSDでは、快を感じなくなる（ ）、小さな物音にも敏感に反応する（ ）、（ ）、不安や焦燥、集中困難などがみられる。
4. PTSDでは、場合によってはアルコール（ ）の要因となる。
5. 急な動悸、呼吸困難、死んでしまうかもしれないというような気持となる発作は（ ）である。
6. パニック発作はだいたい（ ）分以内におさまる。
7. パニック発作では、いつ発作がおこるか不安になる（ ）や、逃げられない状況に置かれることに対する（ ）不安などを生じる。

8. 厳粛な場所で「バカヤロー」と叫んでしまわないか、繰り返し気にしているのは（ ）性障害である。
9. 強迫性障害では、ドアの取っ手が汚れているのではないかというような（ ）恐怖を伴うことが多い。
10. 強迫性障害でおこる強迫観念や強迫行為は、自分でも（ ）とわかっている。
11. 転換性障害では、手足の（ ）や（ ）の麻痺、（ ）発作などがみられる。
12. 転換性障害の発作では脳波の異常は（ ）。
13. 解離性障害では、（ ）、（ ）、（ ）、多重人格などがみられる。
14. 身体疾患がないにもかかわらず、疼痛、運動や感覚の麻痺、胃腸障害などの身体化障害、心気症（自分は重大な病気だと思い込む）などが数年にわたって続くものを（ ）という。
15. 人前で発言しようとする赤面したり、手が震えたりするのは（ ）である。
16. 離婚や転居などによる子どもの適応障害では（ ）などがみられる。

摂食障害について

1. 摂食障害は10代～20代前半の（ ）性に多い。
2. 明らかな体重減少（標準体重－15%）がある場合（ ）という。
3. 摂食障害では自己誘発性（ ）や、（ ）の乱用がある。
4. 摂食障害では（ ）恐怖や、食べ物に対する（ ）性がある。
5. 神経性無食欲症の身体症状として、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）、電解質異常などがある。
6. 神経性無食欲症では（ ）の歪み、（ ）の欠如などがある。
7. 神経性無食欲症では食べ物を食べない（ ）、食べ過ぎる（ ）、隠れ食いなどがみられる。

パーソナリティ障害について

1. 相手に対して自分に良からぬ事を企んでいるというような猜疑心や不信感が強く、それによって不安になりやすいのは（ ）パーソナリティ障害である。
2. 非社会的で他者への関心が低く、自閉的なのは（ ）パーソナリティ障害である。
3. 風変わりで魔術的な思考を持つのは（ ）パーソナリティ障害である。
4. 人の注目を集めたがり、言動が芝居がかっているのは（ ）パーソナリティ障害である。
5. 優越感が強く、人からの称賛を求め、人に共感する心が欠如しており、自分の価値や重要性を過大評価する傾向があるのは（ ）パーソナリティ障害である。
6. 男性に多く、他者の権利や感情を無神経に軽視し、攻撃性や衝動性があり、犯罪を犯してもなんとも思わないのは（ ）パーソナリティ障害である。
7. 自我同一性が不安定で、空虚感、見捨てられ不安、自傷行為などをたびたび繰り返すのは（ ）パーソナリティ障害である。
8. 失望や批判を恐れて、親密な人間関係や社会的状況を避ける傾向があるのは（ ）パーソナリティ障害である。
9. 大きな決断や責任を他人まかせにし、依存するのは（ ）パーソナリティ障害である。
10. まじめで几帳面だが柔軟性に欠け変化にうまく適応できないのは（ ）パーソナリティ障害である。

てんかんについて 次のてんかん症状は何か

1. 作業中急に手が止まるといった一瞬の意識消失のみを示す。:()
2. 突然、瞬間的に全身あるいは四肢・体幹の一部の筋に強いけいれんがおこる。通常、意識障害はない。光刺激で誘発されることがある:()
3. 何か見えたり、聞こえたり、味を感じたりするもので意識障害はない。:()
4. 片側の部分的な間代けいれんをおこす。意識障害はない。:()
5. 4が全身に広がり、意識障害が出現するもの。:()
6. ミオクロニー発作が律動的に反復し、意識障害もおこすもの。:()
7. 数秒間程度の比較的短時間の強直状態をおこすもので、意識障害を伴う。:()
8. 側頭葉てんかんから初発し、自動症（舌なめずり、衣服のまさぐり、ウロウロするなど）を伴うもの。意識障害あり。:()
9. 姿勢を保持する筋の緊張が低下し、姿勢が崩れたり倒れたりする。:()
10. 強直から始まり、間代発作、意識消失するもの。健忘を残す。:()
11. 乳児が頭部の前屈を反復させる。:()

◎かっこを埋めなさい

1. 身体両側に同時におこる発作を()発作という。
2. 身体の片側に限局して起こる発作で意識障害を伴わないものを()という。
3. 予後が最も不良なのは、()発作である。
4. 乳児に多く點頭てんかんをおこし、知的障害を伴うものを()という。
5. 2～8歳に多く、非常に予後不良のものを()という。
6. 学童期の女兒に多いてんかんは()である。
7. てんかんの治療薬のフェニトインの副作用には()、多毛などがある。
8. 全般発作には、()、()、()、()、()がある。
9. 単純部分発作には、()、()、()、()がある。
10. 小児が高熱を出したときにおこるけいれん発作を()といい、転換に移行することは()。

物質依存症について

1. アルコール依存症によってニコチン酸（ナイアシン）が欠乏すると()をおこす。
2. アルコールによってビタミン B1 が欠乏すると()をおこす。
3. アルコールによって作話や健忘、失見当識が生じる()をおこす。
4. アルコールの離脱症状には断酒後 7 時間頃から手指しんせん、発汗、発熱、頻脈、幻視、けいれん発作などをおこす()と 72 時間～96 時間でおこる()がある。
5. 後期離脱症候群には、()、()、()などがある。
6. 大麻や LSD では身体依存は()。
7. モルフィネでは、離脱症状が非常に激しく、()という。
8. アルコール依存症や、物質依存症には患者会などの()が有効である。

【各疾患と症状、特徴等】

認知症について

◎下記の症状に当てはまる認知症は何か。

1. リアルな幻視、日内変動、せん妄などを呈する認知症・・・(**Lewy 小体型認知症**)
2. 初期では、記銘力障害、見当識障害、空間認知障害などを呈する認知症・・・(**Alzheimer 型認知症**)
3. 人格変化、反社会的行動などを初期に呈する認知症・・・(**Pick 病 (前頭側頭型認知症)**)
4. 男性に多く、片麻痺などを伴う認知症・・・(**脳血管性認知症**)
5. 脳の白質の変化に伴う認知症・・・(**Binswanger 型認知症**)

◎かっこを埋めなさい。

1. アルツハイマー型認知症は性別では (**女性**) に多い。
2. ピック病では同じ行動を繰り返す (**常同行動**) が見られる。同じ時間にいつも同じ行動をすることを (**時刻表的行動**) という。
3. レビー小体型認知症では、突進様歩行など (**パーキンソン**) 症状がみられる。
4. (**軽度認知障害 (MCI)**) は5年後に約50%程度認知症に進行する。
5. アルツハイマー型認知症の見当識障害では、まず (**時間 (⇒場所⇒人)**) の見当識が障害される。

統合失調症について

1. 統合失調症は性別では、(**男女差はない**) 。
2. 統合失調症の発症率は約 (**1**) %で、精神科の入院患者では (**最も多い**) 。
3. 統合失調症では夜間せん妄など (**意識**) の障害はない。また、知能の障害も基本的にはない。
4. 予後不良因子として、発症年齢が (**低い**)、性別では (**男性**)、神経学的症状がある、家族歴が (**ある**)、発症から治療までの期間が (**長い**)、陰性症状が (**強い**) などがある。
5. 予後が良好な因子として、発症が (**遅い**)、(**急**) 性の発症 (**緊張**) 病症状を呈する、病前の性格が (**社交的**)、明らかな (**誘因**) があるなどがある。
6. 家族の感情表出が (**多い**) ほど、再発しやすくなる。
7. 統合失調症では、他の人に比べて死亡率が (**高い**)。自殺も多い。
8. 「脳が溶ける」、「皮膚から虫が出てくる」などの症状は (**体感幻覚**) である。
9. じっと座ってられない、足がむずむずするというのは (**アカシジア**) である。
10. 急に眼球が上転するというのは (**急性ジストニア**) である。
11. 長期の薬物服用により、口がもぐもぐ動く、下を出したり引いたりするというのは (**遅発性ジスキネジア**) である。
12. 多量の薬物服用により、頻脈、高熱、流涎、意識障害など重篤な症状を示すものを (**悪性症候群**) という。
13. 緊張病症状として、発動性がなくなるという (**昏迷**)、他動的に手を挙げさせるとその姿勢を続ける (**カタレプシー**)、同じところをウロウロする (**常同行動**)、芝居じみた挨拶や奇妙な身振りをする (**街奇症**)、大声で叫んだりする (**精神運動興奮**) などがみられる。
14. 陽性症状として (**幻聴**)、(**妄想**)、(**思考途絶**)、(**作為体験**) などがある。
15. 陰性症状として (**感情の平板化 (鈍麻)**)、(**意欲低下**)、(**自閉**)、(**無為**) などがある。
16. 統合失調症の服薬は一生続けることが (**ほとんどである**) 。

気分障害について

1. うつ病は（ 女 ）性に多い。
2. うつ病の発症率は約（ 8（13%） ）%である。
3. うつ病の身体症状として、（ 胃腸障害 ）、（ 食欲不振 ）、（ 頭重感、頭痛 ）などがある。
4. うつ病では（ 入眠障害 ）、（ 中途覚醒 ）、（ 早朝覚醒 ）などの睡眠障害がみられる。
5. 思考の障害として、うつ病では（ 思考制止 ）が、躁病では（ 観念奔逸 ）がある。
6. 躁病では、活動性が亢進していてなかなか寝ない、朝早くから起きるといった（ 睡眠障害 ）がある。
7. 躁病では、いろいろなことを次々に行う（ 行為心拍 ）がみられる。
8. 双極性障害は単極性うつ病に比べて、発症年齢が（ 若い ）、（ 遺伝性素因 ）の関与が強い。
9. 双極性障害には躁状態が重度の（ I型 ）と、軽度の（ II型 ）がある。
10. 双極性障害では性別では（ 男女差がない ）。
11. 躁病の薬物療法として（ 炭酸リチウム（気分安定薬） ）が用いられる。
12. うつ病の薬物療法として、以前は（ 三環系 ）や（ 四環系 ）の薬が使われていたが、現在は（ SSRI ）や（ SNRI ）など、副作用の少ない薬が使われるようになった。
13. 気分障害に対して電気けいれん療法は、効果が（ ある ）。
14. 老年期のうつ病では、考えが遅くなったりすることで（ 仮性認知症 ）となることがある。
15. 季節性うつ病は、日照時間の短い（ 11月～3月 ）頃、症状が悪化するもので（ 光照射療法 ）が効果がある。
16. 産後になる（ 産後うつ ）は、産後1か月頃から発症することが多く、自分のこどもが可愛く思えない、育児を放棄するなどの症状がみられる。
17. 胃が痛いなどの身体症状が前景に出るうつ病を（ 仮面うつ病 ）という。
18. 身体疾患や神経症があると、うつ病を（ 発症 ）しやすい。
19. うつ病では朝は調子が（ 悪く ）、夕方は（ 少し良くなる ）という（ 日内変動 ）がある。
20. 不安や焦燥感の訴えが強い（ 激越性うつ ）は、初老期や老年期に多い。
21. うつ病の初期では、まず（ 安静（休養） ）が必要となる。
22. 1日中の抑うつ気分や意欲の低下、食欲低下、睡眠障害などが2年以上続く場合は（ 気分変調性障害 ）である。

神経症・ストレス関連障害について

1. 外傷後ストレス障害（PTSD）では、（ 数週～6か月以内の潜伏期間 ）を経て発症する。
2. PTSDでは、外傷的出来事がよみがえる（ フラッシュバック ）がおこる。
3. PTSDでは、快を感じなくなる（ アンヘドニア ）、小さな物音にも敏感に反応する（ 驚愕反応 ）、（ 過覚醒 ）、不安や焦燥、集中困難などがみられる。
4. PTSDでは、場合によってはアルコール（ 依存 ）の要因となる。
5. 急な動悸、呼吸困難、死んでしまうかもしれないというような気持となる発作は（ パニック発作 ）である。
6. パニック発作はだいたい（ 15 ）分以内におさまる。
7. パニック発作では、いつ発作がおこるか不安になる（ 予期不安 ）や、逃げられない状況に置かれることに対する（ 広場 ）不安などを生じる。

8. 厳粛な場所で「バカヤロー」と叫んでしまわないか、繰り返し気にしているのは（ 強迫 ）性障害である。
9. 強迫性障害では、ドアの取っ手が汚れているのではないかというような（ 不潔 ）恐怖を伴うことが多い。
10. 強迫性障害でおこる強迫観念や強迫行為は、自分でも（ 不合理 ）とわかっている。
11. 転換性障害では、手足の（ 運動 ）や（ 感覚 ）の麻痺、（ けいれん ）発作などがみられる。
12. 転換性障害の発作では脳波の異常は（ ない ）。
13. 解離性障害では、（ 健忘 ）、（ 遁走 ）、（ 昏迷 ）、多重人格などがみられる。
14. 身体疾患がないにもかかわらず、疼痛、運動や感覚の麻痺、胃腸障害などの身体化障害、心気症（自分は重大な病気だと思いつむ）などが数年にわたって続くものを（ 身体表現性障害 ）という。
15. 人前で発言しようとする赤面したり、手が震えたりするのは（ 社会不安（対人恐怖） ）である。
16. 離婚や転居などによる子どもの適応障害では（ 夜尿症 ）などがみられる。

摂食障害について

1. 摂食障害は10代～20代前半の（ 女 ）性に多い。
2. 明らかな体重減少（標準体重－15%）がある場合（ 神経性無食欲症 ）という。
3. 摂食障害では自己誘発性（ 嘔吐 ）や、（ 緩下剤 ）の乱用がある。
4. 摂食障害では（ 肥満 ）恐怖や、食べ物に対する（ 強迫 ）性がある。
5. 神経性無食欲症の身体症状として、（ 無月経 ）、（ 低体温 ）、（ 徐脈 ）、（ 低血圧 ）、電解質異常などがある。
6. 神経性無食欲症では（ ボディイメージ ）の歪み、（ 病識 ）の欠如などがある。
7. 神経性無食欲症では食べ物を食べない（ 不食 ）、食べ過ぎる（ 過食 ）、隠れ食いなどがみられる。

パーソナリティ障害について

1. 相手に対して自分に良からぬ事を企んでいるというような猜疑心や不信感が強く、それによって不安になりやすいのは（ 妄想性 ）パーソナリティ障害である。
2. 非社会的で他者への関心が低く、自閉的なのは（ 統合失調質 ）パーソナリティ障害である。
3. 風変わりで魔術的な思考を持つのは（ 統合失調型 ）パーソナリティ障害である。
4. 人の注目を集めたがり、言動が芝居がかっているのは（ 演技性 ）パーソナリティ障害である。
5. 優越感が強く、人からの称賛を求め、人に共感する心が欠如しており、自分の価値や重要性を過大評価する傾向があるのは（ 自己愛性 ）パーソナリティ障害である。
6. 男性に多く、他者の権利や感情を無神経に軽視し、攻撃性や衝動性があり、犯罪を犯してもなんとも思わないのは（ 反社会性 ）パーソナリティ障害である。
7. 自我同一性が不安定で、空虚感、見捨てられ不安、自傷行為などをたびたび繰り返すのは（ 境界性 ）パーソナリティ障害である。
8. 失望や批判を恐れて、親密な人間関係や社会的状況を避ける傾向があるのは（ 回避性 ）パーソナリティ障害である。
9. 大きな決断や責任を他人まかせにし、依存するのは（ 依存性 ）パーソナリティ障害である。
10. まじめで几帳面だが柔軟性に欠け変化にうまく適応できないのは（ 強迫性 ）パーソナリティ障害である。

てんかんについて 次のてんかん症状は何か

1. 作業中急に手が止まるといった一瞬の意識消失のみを示す。:(欠神発作 (小発作))
2. 突然、瞬間的に全身あるいは四肢・体幹の一部の筋に強いけいれんがおこる。通常、意識障害はない。光刺激で誘発されることがある:(ミオクロニー発作)
3. 何か見えたり、聞こえたり、味を感じたりするもので意識障害はない。:(感覚発作)
4. 片側の部分的な間代けいれんをおこす。意識障害はない。:(焦点運動発作)
5. 4が全身に広がり、意識障害が出現するもの。:(ジャクソン発作)
6. ミオクロニー発作が律動的に反復し、意識障害もおこすもの。:(間代発作)
7. 数秒間程度の比較的短時間の強直状態をおこすもので、意識障害を伴う。:(強直発作)
8. 側頭葉てんかんから初発し、自動症(舌なめずり、衣服のまさぐり、ウロウロするなど)を伴うもの。意識障害あり。:(複雑部分発作)
9. 姿勢を保持する筋の緊張が低下し、姿勢が崩れたり倒れたりする。:(脱力発作)
10. 強直から始まり、間代発作、意識消失するもの。健忘を残す。:(強直間代発作 (大発作))
11. 乳児が頭部の前屈を反復させる。:(點頭てんかん)

◎かっこを埋めなさい

1. 身体両側に同時におこる発作を (全般) 発作という。
2. 身体の片側に限局して起こる発作で意識障害を伴わないものを (単純部分発作) という。
3. 予後が最も不良なのは、(複雑部分) 発作である。
4. 乳児に多く點頭てんかんをおこし、知的障害を伴うものを (West 症候群) という。
5. 2~8歳に多く、非常に予後不良のものを (Lenox-Gastaut 症候群) という。
6. 学童期の女兒に多いてんかんは (欠神発作) である。
7. てんかんの治療薬のフェニトインの副作用には (歯肉増殖)、多毛などがある。
8. 全般発作には、(大発作 (強直間代発作))、(小発作 (欠神発作))、(間代発作)、(強直発作)、(ミオクロニー発作)、(脱力発作) がある。
9. 単純部分発作には、(焦点運動発作)、(感覚発作)、(自律神経発作)、(精神発作) がある。
10. 小児が高熱を出したときにおこるけいれん発作を (熱性けいれん) といい、転換に移行することは (ほとんどない)。

物質依存症について

1. アルコール依存症によってニコチン酸(ナイアシン)が欠乏すると (ペラグラ脳症) をおこす。
2. アルコールによってビタミン B1 が欠乏すると (Wernicke 脳症) をおこす。
3. アルコールによって作話や健忘、失見当識が生じる (Korsakoff 症候群) をおこす。
4. アルコールの離脱症状には断酒後 7 時間頃から手指しんせん、発汗、発熱、頻脈、幻視、けいれん発作などをおこす (早期症候群) と 72 時間~96 時間でおこる (後期症候群) がある。
5. 後期離脱症候群には、(振戦せん妄)、(Lepmann 現象)、(小動物の幻視) などがある。
6. 大麻や LSD では身体依存は (ない)。
7. モルフィネでは、離脱症状が非常に激しく、(自律神経の嵐) という。
8. アルコール依存症や、物質依存症には患者会などの (集団療法) が有効である。